

「創成川通の整備について」

平成16年から始まった札幌中心部創成川通の工事も5年目を迎えました。2つのアンダーパスを1つに結び連続化を図る工事も順調に進み、来春には開通が見込まれています。市民の思い出の風景として刻まれている創成川が、どんな新しい顔を見せてくれるのか気になるところです。そこで札幌市の清水英征さんに、創成川通とその周辺がどのように変わるのかひと足早くお話を聞かせて頂きました。



〈お話し〉 札幌市建設局土木部
創成・駅前整備担当課長

清水 英征 氏



〈聞き手〉
フリーアナウンサー
萬谷 利久子

Q 何のために行う工事なのか事業の目的を教えてください。

A 主な目的としては、周辺道路の渋滞緩和、交通事故減少を目指した安全性の確保、歴史的遺産を活かした親水緑地空間づくりがあります。

Q 渋滞や混雑はどのように緩和されるのですか？

A これまで北大通を東へ走る車は創成川通で行き止まりとなり、北へと左折せざるをえませんでした。整備後は直進が可能となり、西から東へのルートが1本増えることとなります。渋滞ポイントとなっていた西2丁目通の大通との交差点も緩和されるでしょう。2つのアンダーパスが繋がることにより、都心に用事のない車は一気に移動ができ短時間で通過できるようになります。

Q 創成川通には、事故が起きやすい場所があったのでしょうか？

A 南2条～大通間は地上道路が片側4車線あり、地上からアンダーパスへ、その逆の動きも重なり無理な車線変更をする車が多かったのです。短い距離での左右の動きから接触事故がおこりやすくなっていました。歩行者にとっても、8車線の広い道路を1回の信号で渡り切るのはむずかしく、車と

歩行者との接触も増えていたのです。整備後、道路幅を2車線に縮めることにより歩行者も確実に渡れる環境になります。

Q 公園周辺の地域はどのように変わるのでしょうか？

A 創成川通が広がったために人がなかなか横断せず、東側は静かなエリアでした。川沿いのしだれ柳が視界を遮り、西側の様子もよく見えない状況だったのです。新しい公園は高中低木をバランスよく配置し見通しがよくなります。東西を分断するバリア的なイメージが強かった創成川通が、親水緑地空間ができることで人が集まり、東西の連携を促すと期待されます。

Q 公園の広場はどのように使われるのですか？

A 狸小路と南2条通間のブロックに広場ができます。「創成川東秋まつり」のような地域に根差したイベントに使われるかもしれませんし、コンサートもできそうですね。二条市場で焼いた魚介や狸小路の飲食店からテイクアウトしたランチを食べることができたら食の楽しみも増えるでしょう。

Q どのような歴史的スポットができるのでしょうか？

A 創成川という名前は、南1条通の交差点にかかっていた創成橋からついたと言われます。明治43年に造られた石造アーチ橋で、現在は工事に伴い解体されていますが平成21年に復元工事が始まります。昔の面影を残しつつ現代にマッチしたデザインの橋になるでしょう。また橋のたもとにあった交番の復元についても地元事業者の方から要望があがってきています。今後、地元の方々と管理、活用も含めて議論していきたいと考えております。

Q 親水緑地空間はどんなデザインになるのでしょうか？

A 都心には珍しい川のある公園になります。川の音をすぐそばで聞きながらお散歩した



り、芝生の上でゆっくり休める憩いの場となるでしょう。札幌らしさを考慮し、古くから市民に親しまれているハルニレや札幌市の木であるライラックなどが植えられます。

親水空間として南2条～4条までの2ブロックは、川と同じ目線まで降りられるようになります。川の水深は15センチ程度で、飛び石で渡り歩いたり子供が水遊びを楽しめるようになります。そのために見えない部分にバイパス管を造り、川の本流を流してゆるやかな川を造ります。また公園内にはアート作品も置かれる予定です。

取材後記

キラキラ輝く川の水面と緑あふれる公園。子供たちの笑い声や人々のくつろぐ様子が目に浮かびます。市場や商店街の方々の活性化に対する期待もひとしおでしょう。創成川通周辺を車がスムーズに走れるよう、私たちが新たな気持ちでマナーを守り、気持ちのいい街にしていきたいですね。



実際に現在工事中の現場も見学させていただきました。(右側はご案内してくださった、市土木部 小泉係長)

